

事務事業評価における総括

部 局 名	会計課	記入責任者	竹内 一郎
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>会計課の事業では、8事業のうち5事業で指標を達成し、S評価としていることから、おおむね順調に進捗しています。しかし、目標値を達成できず、B評価としたものが1事業、C評価としたものが1事業、E評価としたものが1事業あることから、政策・施策目標の達成に向けて、再度事業手法の見直しを行う必要があります。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>B評価とした「財務会計システムの研修事務」については、関係課かいと連携した計画的な取り組みにより目標値は達成できましたが、限られた人員体制の中で、日々の業務と並行して実施することが困難な状況にあったことから、継続的、かつ、効果的に研修を行い、職員全体のスキルアップにより成果を上げる必要があります。</p> <p>C評価とした「支出負担行為及び支出命令の審査事務」については、29年度から稼働している財務会計システムの操作及び財務事務の知識習得が不十分であること、十分な審査時間を確保できなかったこと等の原因があったと分析しています。</p> <p>E評価とした「公金の管理・運用事務」については、経済情勢の影響により金利の低水準が続いていることから、管理目標を達成することが難しい一面があると考えます。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>会計課の事業は、日々適正に業務を遂行することが使命ではありますが、日々の業務が繁雑なため、会計課職員の業務負担を軽減すること、かつ、危機管理の観点からも、全職員一人ひとりの財務事務の向上を図る必要があることから、会計事務のより適正な事務を推進するために、周知及び研修方法等の改善を行います。</p> <p>資金運用については、経済情勢の影響を考慮し、様々な観点から安全かつ効果的な運用方法の検討を行います。合わせて、各課からの正確な収支予定を報告させ、資金計画の精度を上げることで、残高不足がないよう運用原資の確保を行います。</p>			